



Sun SPARC Enterprise™ M4000/M5000 サーバ プロダクトノート

XCP 1081 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-7473-10
2009 年 6 月, Revision A

Submit comments about this document at: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

プロダクトノート	1
XCP 1081 に関する一般的な情報	3
XCP 1081 の新機能	3
サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム	4
Solaris パッチ情報	5
Solaris 10 10/08 のパッチ	5
Solaris 10 5/08 のパッチ	5
Solaris 10 8/07 のパッチ	6
Solaris 10 11/06 のパッチ	6
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	7
QLogic PCIe カードのパッチ	7
Solaris パッチの入手方法	8
Update Manager GUI を使用したパッチの入手	8
smpatch CLI を使用したパッチの入手	10
XCP 1081 へのアップグレード	12
XSCF ファームウェアのリセット	12
OpenBoot PROM ファームウェアのアップデート	12
XCP 1050 より前のバージョンからのアップデート	12
XCP 1081 より前のバージョンからのアップデート	13

機能の問題と制限事項 13

SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項 13

一般的な機能の問題と制限事項 13

追加情報および手順 15

システムへのログイン 15

XSCF Web ブラウザの問題 16

WAN ブートサーバからのブート 16

Sun Java Enterprise System 17

Sun Crypto Accelerator 6000 カード 17

U320 PCIe SCSI カード 18

システムメモリの識別 19

- ▼ システム内の縮退メモリの識別 19
- ▼ showdevices コマンドの使用によるメモリサイズの識別 19
- ▼ prtdiag コマンドの使用によるメモリサイズの識別 20
- ▼ ターゲットボードのカーネルメモリの識別 20

CPU アップグレード（当社技術員のみ） 22

新しいドメインに追加された SPARC64 VII CPU モジュール 22

既存のドメインに追加された SPARC64 VII プロセッサ 25

- ▼ 既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備 26
- ▼ SPARC64 VIで構成されているドメインへのSPARC64 VII CPU モジュールの追加 28
- ▼ 既存ドメインにおける SPARC64 VI CPU モジュールの SPARC64 VII へのアップグレード 29

ハードウェアに関する情報 33

200V 電源装置を使用する場合の注意事項 33

電源を切断した後に電源を投入する場合の注意事項 33

ハードウェアに関する問題と回避方法 34

Sun Crypto Accelerator 6000 カード 34

ハードウェアドキュメントの変更予定 35

『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』の変更予定 36

ソフトウェアによる本体装置の電源切断 36

手動による本体装置の電源切断 37

DIMM 情報の説明 37

PCI カードの取り付け 38

ソフトウェアに関する情報 39

XCP に関する問題と回避方法 39

Solaris OS に関する問題と回避方法 41

サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題 41

Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題 45

Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題 47

Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題 51

ドキュメントの変更予定 55

はじめに

このプロダクトノートでは、ドキュメントの出版後に判明した、Sun SPARC Enterprise™ M4000/M5000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報を説明します。

技術サポート

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのドキュメントで解決できない質問や問題がありましたら、ご使用地域の当社技術員にお問い合わせください。

米国またはカナダのお客様は、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) までご連絡ください。その他の地域のお客様は、次のウェブサイトアクセスして最寄の World Wide Solution Center をお探してください。

<http://www.sun.com/service/contacting/solution.html/>

ソフトウェアリソース

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバには、Solaris™ Operating System および Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

追加情報

追加情報については、Solaris ドキュメントに付属のリリースノート、および最新の『*Solaris 10 Sun Hardware Platform Guide*』を参照してください。また、このマニュアルに追加の補足がないかどうか、ドキュメントウェブページを確認してください。最新情報は、次のウェブサイトに掲示されます。

<http://www.sun.com/documentation/>

マニュアルへのアクセス

本体装置の設置、管理、使用のための手順は、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

<http://www.sun.com/documentation/>

注 - このプロダクトノートで説明する情報は、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

ご意見をお寄せください。

Sun では、マニュアルの品質向上のために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。Sun へのコメントを送信するには、次のウェブサイトのフォームを使用してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

コメントの送信にあたっては、次のマニュアルのタイトルと Part No. を入力してください。

『*Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ プロダクトノート (XCP 1081 版)*』、
Part No. 820-7473-10

プロダクトノート

このプロダクトノートには、Sun SPARC Enterprise™ M4000/M5000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。

ソフトウェアリソース

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 には、Solaris™ Operating System および Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

最新の Solaris パッチ

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの必須 Solaris パッチは、システムにプレインストールされています。使用している Solaris OS のバージョンに必要なパッチの一覧については、「[Solaris パッチ情報](#)」(P.5) を参照してください。

追加情報

追加情報については、使用している Solaris OS のバージョンに対応するリリースノートと、次の URL の Big Admin ウェブサイトを参照してください。

<http://www.bigadmin.com>

XCP 1081 に関する一般的な情報

ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCP 1081 の新機能」 (P.3)
- 「サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム」 (P.4)
- 「Solaris パッチ情報」 (P.5)
- 「Solaris パッチの入手方法」 (P.8)
- 「XCP 1081 へのアップグレード」 (P.12)
- 「機能の問題と制限事項」 (P.13)
- 「追加情報および手順」 (P.15)

XCP 1081 の新機能

- 次に示す XSCF コマンドがアップデートされています。
 - `dumpconfig(8)`
 - `setsmtplib(8)`
 - `setsnmp(8)`
 - `showhardconf(8)`詳細については、各コマンドの `man page` を参照してください。
- 次に示す新しい XSCF コマンドがサポートされています。
 - `setloginlockout(8)`
 - `showloginlockout(8)`詳細については、各コマンドの `man page` を参照してください。

サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム

表 1 に、本リリースでサポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム (OS) のバージョンを示します。

表 1 ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

ソフトウェアまたはファームウェア	バージョン
XSCF Control Package	1081
SPARC64™ VII プロセッサ: XCP 1071	
Capacity on Demand (COD) サポート: XCP 1050	
Solaris オペレーティングシステム	
SPARC64 VI プロセッサ: Solaris 10 11/06 以降 (必須パッチ適用済み)	
SPARC64 VII プロセッサ: Solaris 10 8/07 以降 (必須パッチ適用済み)*	

* パッチについては、「Solaris パッチ情報」(P.5) を参照してください。

最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

注 - Solaris 10 8/07 インストール用 DVD では、SPARC64 VII プロセッサを搭載したドメインをブートできません。SPARC64 VII プロセッサを搭載したドメインをブートするには、Solaris 10 5/08 インストール用 DVD を使用します。

XSCF Web は、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Web の動作することが確認されているウェブブラウザは、表 2 のとおりです。

表 2 確認されたウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Firefox	2.0 および 3.0
Microsoft Internet Explorer	6.0 および 7.0

Solaris パッチ情報

この項では、M4000/M5000 サーバの必須パッチを示します。

パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチの README を参照してください。

この項に示すパッチ ID は、インストールが必要なパッチの最小レベルを表しています。2 桁のサフィックスは、パッチの最小リビジョンレベルを表しています。

最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

パッチは、記載されている順序で適用します。パッチを含めた CPU のアップグレードの手順については、「[CPU アップグレード \(当社技術員のみ\)](#)」(P.22) を参照してください。

その他の Solaris OS の情報については、「[Solaris OS に関する問題と回避方法](#)」(P.41) を参照してください。

Solaris 10 10/08 のパッチ

Solaris 10 10/08 OS 以降を実行する本体装置の場合、パッチは不要です。

Solaris 10 5/08 のパッチ

Solaris 10 5/08 を実行する M4000/M5000 サーバすべてに、次のパッチが必要です。

■ 137137-09

Solaris 10 5/08 OS は、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

Solaris 10 8/07 のパッチ

次のパッチは、SPARC64 VII CPU を搭載した本体装置上の Solaris 10 8/07OS に対してのみ必要です。次に示す順序でインストールします。

1. 119254-51 - SunOS 5.10: インストールおよびパッチユーティリティーパッチ
2. 125891-01 - SunOS 5.10:libc_psr_hwcap.so.1 パッチ
3. 127755-01 - SunOS 5.10: Fault Manager パッチ
4. 127127-11 - SunOS 5.10: カーネルパッチ

Solaris 10 8/07 OS (パッチ 127127-11) は、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

Solaris 10 11/06 のパッチ

Solaris 10 11/06 OS には、次のパッチが必要です。これらの必須パッチを適用しても、Solaris 10 11/06 では SPARC64 VII プロセッサはサポートされません。次に示す順序でパッチをインストールします。

1. 118833-36 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
2. 125100-10 – その他のパッチ要件の一覧については、パッチの README ファイルを参照してください。
3. 123839-07
4. 120068-03
5. 125424-01
6. 118918-24
7. 120222-21
8. 125127-01 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
9. 125670-02
10. 125166-05

Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次に示す Emulex カードは、パッチ 120222-26 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek™ Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA
(部品番号 SG-XPCIE2FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCIe HBA
(部品番号 SG-XPCIE1FC-EM4)

QLogic PCIe カードのパッチ

次に示す QLogic カードは、パッチ 125166-10 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA
(部品番号 SG-XPCIE2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCIe HBA
(部品番号 SG-XPCIE1FC-QF4)

Solaris パッチの入手方法

Sunsm Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムをアップデートできます。Sun Connection Update Manager の詳細については、次の URL にある『*Sun Update Connection System Administration Guide*』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/updconn.sys>

または、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

システムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- 「Update Manager GUI を使用したパッチの入手」 (P.8)
- 「smpatch CLI を使用したパッチの入手」 (P.10)

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれていません。



注意 – Solaris 10 11/06 OS を実行する SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの場合、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、必要に応じて <http://sunsolve.sun.com/> からダウンロードできます。これ以降のバージョンの Solaris 10 OS を実行している本体装置の場合は、これらのパッチは不要です。

Update Manager GUI を使用したパッチの入手

1. root として、次のいずれかの方法で Update Manager を起動します。

- [JDS Launch] メニューで
[Launch]->[Applications]->[System Tools]->[Update Manager] の順にクリックします。
- 端末ウィンドウで
/usr/bin/updatemanager と入力します。

2. 登録を完了します。

- すでに登録している場合は、[ステップ 3](#)に進みます。

- まだ登録していない場合は、Update Manager のインターフェースを使用して登録手続きに進みます。画面の指示に従います。

注 – Sun Connection Update Manager GUI を使用して登録を完了できない場合は、コマンドラインインターフェース (CLI) を使用してパッチを入手してください。[「smpatch CLI を使用したパッチの入手」\(P.10\)](#) を参照してください。

3. Update Manager の [Available] タブで、[Update Collection] ドロップダウンメニューを開き、[Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 Servers] を選択します。

Update Manager は、必要なパッチがあるかどうか、システムを分析します。

4. カーネルパッチが推奨される場合、パッチ ID の左側にあるボックスをクリックしてこのパッチを選択し、[Install] ボタンをクリックします。

パッチは /var/sadm/spool にダウンロードされます。

注 – カーネルパッチ (パッチ 118833-xx など) のインストールには、特別な手順が必要です (詳細についてはパッチの README を参照してください)。多くの場合、カーネルパッチはダウンロードのみの (対話型) パッチで、手動でのインストールが必要です。パッチセットにあるその他のパッチをインストールするには、カーネルパッチを先にインストールする必要があります。

5. カーネルパッチの場合は、続けて次のように入力します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip patchid-xx.jar
```

6. 次のファイルに示されているインストール手順を実行します。

```
/var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx
```

7. patchid-xx をインストールした後、shutdown コマンドを使用してシステムを再起動します。

reboot コマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。Update Manager または shutdown コマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

8. 再び Update Manager を起動して、ステップ 3 と同様にコレクションを選択します。

9. Update Manager で新しい分析が自動的に開始されない場合は、[Check for Updates] ボタンをクリックします。

10. パッチの一覧で、パッチ ID の左側にあるボックスをオンにしてパッチを選択します。

11. [Install] ボタンをクリックします。

Update Manager は、パッチをダウンロードしてインストールします。

12. パッチのいずれかでシステムの再起動を求められた場合は、[ステップ 7](#)の手順に従います。

再起動を必要とするパッチをインストールした場合、Update Manager によってシステムを再起動できます。または、[ステップ 7](#)の説明どおり、shutdown コマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールは完了しました。

smpatch CLI を使用したパッチの入手

1. ファイル `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` を `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. ユーザー名とパスワード、および必要に応じてネットワークプロキシとポートを追加するように、ファイル `/tmp/RegistrationProfile.properties` を編集します。

注 – ユーザー名およびパスワードは、Sun オンラインアカウントです。アカウントを作成するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

3. システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 適切なパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=sem3k4k5k8k9k
```

5. カーネルパッチがあれば、インストールします。

カーネルパッチ (118833-xx など) は、Sun Connection Update Manager でダウンロードできます。

a. パッチを `/var/sadm/spool` ディレクトリにダウンロードします。

```
# smpatch update -i patchid-xx
```

b. パッチを解凍します。

```
# cd /var/sadm/spool  
# unzip patchid-xx.jar
```

c. ファイル /var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx に示されているインストール手順に従って、パッチをインストールします。

6. システムを再起動します。

reboot コマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。Update Manager または shutdown コマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

7. パッチの一覧を表示します。

```
# smpatch analyse
```

8. パッチをダウンロードしてインストールします。

```
# smpatch update
```

9. パッチのいずれかでシステムの再起動が求められた場合は、[ステップ 6](#)を参照してください。

再起動を必要とするパッチをインストールした場合、Update Manager によってシステムを再起動できます。または、[ステップ 6](#)の説明どおり、shutdown コマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールは完了しました。

XCP 1081 へのアップグレード

XCP 1050 以降を XCP 1081 にアップグレードできます。手順については、『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』を参照してください。

XSCF ファームウェアのリセット

XCP ファームウェアを 1081 以降にアップデートした後、`rebootxscf(8)` コマンドを使用して XSCF をリセットします。

OpenBoot PROM ファームウェアのアップデート

ターゲットドメインの OpenBoot™ PROM (OBP) ファームウェアのアップデートを完了するには、ドメインを必ず再起動してください。ドメインは、アップデート完了後、できるだけ早く再起動する必要があります。

XCP 1050 より前のバージョンからのアップデート

- XCP 1081 以降に直接アップデートすることはできません。XCP 1050 より前のバージョンを現在実行している場合は、まず中間バージョンである 1050 ~ 1061 (1061 を含む) の XCP にアップデートしてから、XCP 1081 以降にアップデートします。手順については、対象とする中間バージョンのプロダクトノートを参照してください。
- `admin` という名前のアカウントがある場合は、XCP 1050 以降にアップデートする前に、`deleteuser(8)` コマンドを使用してそれらのアカウントを削除します。`admin` アカウント名は、XCP 1050 以降で予約されています。

XCP 1081 より前のバージョンからのアップデート

XCP 1081 以降への XCP アップデートの間に動作中であったドメインでは、Dynamic Reconfiguration (DR) を実行して SPARC64 VII プロセッサを追加または交換する場合、OpenBoot PROM ファームウェアをアップデートする必要があります。OpenBoot PROM ファームウェアは、XCP をアップデートし、ドメインを再起動するとアップデートされます。このため、SPARC64 VII プロセッサを追加したか交換したかにかかわらず、ファームウェアを XCP 1081 以降にアップデートした後は、すべてのドメインを再起動します。

機能の問題と制限事項

この項では、本リリースにおける既知の問題について説明します。

SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項



注意 – SPARC 64 VII プロセッサをシャーシに搭載する前に、XCP ファームウェアおよび Solaris OS のアップグレードを完了しておく必要があります。

一般的な機能の問題と制限事項



注意 – Dynamic Reconfiguration (DR) とホットプラグの問題については、「[Solaris OS に関する問題と回避方法](#)」(P.41) を参照してください。

注 – 分電盤のメインラインスイッチまたはサーキットブレーカーによってシステムの電源を再投入する場合、電源を切断した後に少なくとも 30 秒待ってから、電源を投入してください。

- 次の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、ldap、apache、ntp、admin、および default。

- Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立した NTP サーバを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細については Sun BluePrints™ のマニュアル『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』 (<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。
- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OS パニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号 (電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)
- XSCF を使用し、XCP をインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に Web session ID error が表示されることがあります。また、Autologout 設定でタイムアウト時間を 30 分以上で指定すると、Internal Server Error が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Web に接続し直してください。
- この XCP リリースの場合、XSCF ブラウザユーザーインターフェース (XSCF Web) は、PCI ボックス管理機能をサポートしていません。
- XSCF Web を使用するときは、ポップアップブロック設定を無効にし、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合はプラグインを削除してください。
- XSCF-LAN はオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LAN と接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LAN と全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3 の規約によって、XSCF-LAN は半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。
- ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、Dynamic Reconfiguration (DR) を使用できません。
- M4000/M5000 サーバは、停止交換で使用します。CPU モジュール (CPUM)、メモリボード (MEMB)、I/O ユニット (IOU)、または XSCF ユニットのホットスワップはサポートされていません。
- 1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP カードの場合、次の制限事項があります。
 - 使用できるカードはドメインあたり最大 2 枚
 - これらのカードを PCI ボックスで使用しない
- 4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カードの場合、次の制限事項があります。
 - 1つの PCI ボックスで使用できるカードは最大 4 枚 (PCIe I/O ポートあたり 2 枚)
 - 1つの M4000 サーバドメインで使用できるカードは最大 4 枚
 - 1つの M5000 サーバドメインで使用できるカードは最大 8 枚

- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットは、同時に使用しないでください。
- PCI ボックスを使用してホストサーバを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。
- DR は、XSCF フェイルオーバーまたは XSCF リセットと同時に実行できません。DR 操作の進行中は、XSCF フェイルオーバーまたはリセットを開始しないでください。DR 操作が終了するのを待ってから、フェイルオーバーまたはリセットを開始します。フェイルオーバーまたはリセットを先に開始した場合は、フェイルオーバーまたはリセットが終了してから、DR 操作を開始します。
- 現時点では、消費電力監視機能 (showenvironment コマンドで power オペランドを指定) はサポートされていません。

追加情報および手順

ここでは、本リリース時点でわかっている追加の問題および制限事項について説明します。

システムへのログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、本体装置では、admin と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。本体装置の権限は useradm 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 admin としてログインすることはできません。一時 admin アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 admin としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 admin アカウントは無効となります。

デフォルトのログインが使用される前に一時 admin としてログインできない場合には、showuser -l コマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。

XSCF Web ブラウザの問題

XSCF Web ブラウザインターフェースでは、出力が切り捨てられる場合があります。たとえば、snapshot 画面で SSH を選択したとき、Host、Directory、ID、Password の入力可能文字数が XSCF シェルでの入力可能文字数と一致しません。[Panic Log] ページで、パニックメッセージが最後の 50 行分しか表示されません (CR 6756052)。ブラウザインターフェースで、監査以外のログサイズ制限が最後の 2 桁しか表示されません (CR 6742502)。

出力全体を表示するには、XSCF Shell コマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。

WAN ブートサーバからのブート

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WAN ブートサーバから M4000/M5000 サーバをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイル wanboot をインストールし、OpenBoot™ バージョン 4.24 以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WAN ブートサーバの詳細については、使用している Solaris 10 OS のバージョンに対応する『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OS のドキュメントは次のウェブサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、本体装置でパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

Sun Java Enterprise System

Sun Java™ Enterprise System は、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。概要およびドキュメントについては、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

注 – Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることによって発生する問題 (CR 6644798) に対処するために、Web Console SMF サービスを有効にする必要が生じる場合があります。

▼ Web Console SMF サービスの有効化

- 端末に `root` としてログインし、サービスを有効にします。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

ソフトウェアの最新コピーをダウンロードした場合は、使用している本体装置に必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認する手順については、「Solaris パッチ情報」(P.5) を参照してください。

Sun Crypto Accelerator 6000 カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、M4000/M5000 サーバでパニックまたはハングが発生するおそれがあります。SCA 6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA 6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは使用しないでください。

U320 PCIe SCSI カード

U320 PCIe SCSI カード (部品番号 375-3357-01/02) は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの PCI カセットではサポートされていません。375-3357-03 以降を使用する必要があります。

システムメモリの識別

▼ システム内の縮退メモリの識別

- XSCF にログインし、システムステータスを表示します。

```
XSCF> showstatus
```

次に、メモリボード #5 上の DIMM 番号 0A のメモリが縮退した例を示します。

```
XSCF> showstatus
      MBU_B Status:Normal;
      MEMB#5 Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

▼ showdevices コマンドの使用によるメモリサイズの識別

- XSCF にログインし、デバイスを表示します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -d コマンドの出力を示したもので、0 は domain_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----
      board      perm      base      domain      target deleted remaining
DID XSB  mem MB  mem MB  address  mem MB  XSB  mem MB  mem MB
00 00-0  65536  2402  0x0000000000000000  131072
00 01-0  16384    0  0x000003c000000000  131072
00 01-1  16384    0  0x0000038000000000  131072
00 01-2  16384    0  0x0000034000000000  131072
00 01-3  16384    0  0x0000030000000000  131072

...
```

この例は、システムボード 00-0 は 64 GB のメモリを搭載し、他のシステムボードは 16 GB のメモリを搭載していることを示しています。

▼ prtdiag コマンドの使用によるメモリサイズの識別

- ドメインで、システム診断情報を表示します。

```
# prtdiag
```

次の例は、prtdiag コマンドの出力を示したものです。

```
# prtdiag
...
===== Memory Configuration =====
Memory Available      Memory      DIMM      # of  Mirror Interleave
LSB  Group  Size      Status      Size      DIMMs Mode  Factor
-----
00   A      32768MB   okay        2048MB    16 no    8-way
00   B      32768MB   okay        2048MB    16 no    8-way
01   A      8192MB    okay        2048MB    4 no    2-way
01   B      8192MB    okay        2048MB    4 no    2-way
02   A      8192MB    okay        2048MB    4 no    2-way
02   B      8192MB    okay        2048MB    4 no    2-way
03   A      8192MB    okay        2048MB    4 no    2-way
03   B      8192MB    okay        2048MB    4 no    2-way
04   A      8192MB    okay        2048MB    4 no    2-way
04   B      8192MB    okay        2048MB    4 no    2-way
...

```

この例は、さまざまなメモリサイズを示しています。

▼ ターゲットボードのカーネルメモリの識別

- XSCF にログインし、デバイスを表示します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -d コマンドの出力を示したもので、0 は domain_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0
```

```
...
```

```
Memory:
```

```
-----
```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	65536	2402	0x0000000000000000	131072			
00	01-0	16384	0	0x000003c000000000	131072			
00	01-1	16384	0	0x0000038000000000	131072			
00	01-2	16384	0	0x0000034000000000	131072			
00	01-3	16384	0	0x0000030000000000	131072			

```
...
```

4列目の perm mem MB のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、2402 MB のカーネルメモリが 00-0 にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合に deleteboard コマンドまたは moveboard コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

CPU アップグレード（当社技術員のみ）

注 – SPARC64 VII プロセッサを本体装置に搭載する作業は、当社技術員が行う必要があります。

この項では、SPARC64 VII プロセッサを SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバに搭載する手順について説明します。

- 「新しいドメインに追加された SPARC64 VII CPU モジュール」 (P.22)
- 「既存のドメインに追加された SPARC64 VII プロセッサ」 (P.25)

注 – ファームウェアを XCP 1081 にアップグレードする前に、「[XCP 1081 へのアップグレード](#)」 (P.12) を参照してください。



注意 – SPARC 64 VII プロセッサをシャーシに搭載する前に、XCP ファームウェアおよび Solaris のアップグレードを完了しておく必要があります。

ドメイン内でプロセッサを組み合わせて構成する方法の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』の 2.2.13 項「ドメインモード設定」を参照してください。特に、「SPARC64 VI および SPARC64 VII プロセッサと CPU 動作モード」の項を参照してください。

新しいドメインに追加された SPARC64 VII CPU モジュール

▼ 新しいドメインへの SPARC64 VII CPU モジュールの追加

注 – Solaris 10 8/07 を新しいドメインにインストールする場合は、インストールサーバ上のパッチ適用済みのイメージからインストールする必要があります（[ステップ 20](#) を参照してください）。

1. `platadm` 権限を持つアカウントで XSCF にログインします。
2. 現在、ステータスが `Faulted` または `Deconfigured` と示されている FRU がないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

3. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

4. すべてのドメインが停止したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

5. オペレーターパネルのキーの位置を Locked から Service に変更します。

6. XSCF スナップショットを収集し、アップグレード前のシステムステータスをアーカイブします。

アップグレード中に問題が発生した場合、システムステータスのスナップショットが役に立つことがあります。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

7. XCP のバージョンを 1081 にアップデートします。

ファームウェアを XCP 1081 にアップデートする前に、「[XCP 1081 へのアップグレード](#)」(P.12) を参照してください。ファームウェアをアップデートする手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

8. CPU モジュール (CPUM) を本体装置に搭載します。

手順については、『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』の第 12 章「CPU モジュールの交換」を参照してください。この手順には、本体装置全体の電源切断も含まれています。



注意 – CPU モジュールを搭載した後、電源装置に電源ケーブルを再び接続する必要があります。

9. platadm 権限または fieldeng 権限を持つアカウントで、XSCF に再びログインします。

10. 新しく搭載した CPU モジュールの初期診断を実行します。

```
XSCF> testsb 01
```

次の例は、SPARC Enterprise M5000 サーバに PSB#01 を追加した後のテストを示しています。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start.Continue?[y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

11. 搭載した CPU モジュールが本体装置によって認識されていること、および異常を示すアスタリスク (*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

12. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

13. オペレーターパネルのキーの位置を Service から Locked に変更します。

14. 既存のドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

15. 追加した CPU モジュールについて、次の設定を行います。

- 追加した CPU モジュールの XSB を設定
- ドメインを構成
- ドメインの CPU 動作モードを設定

これらの設定については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。

16. setdomainmode(8) コマンドを使用して、ドメインの自動ブート機能を無効にします。

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』および setdomainmode(8) の man page を参照してください。

17. 新しいドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -d domain_id
```

18. ターゲットドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

19. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

20. SPARC64 VII プロセッサをサポートするバージョンの Solaris OS をインストールします。

サポートされているソフトウェアのバージョンについては、「[サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム](#)」(P.4) を参照してください。

Solaris 10 8/07 を新しいドメインにインストールする場合は、インストールサーバ上のパッチ適用済みのイメージからインストールする必要があります。パッチについては、「[Solaris パッチ情報](#)」(P.5) を参照してください。ネットワークインストールについては、『*Solaris 10 8/07 インストールガイド* (ネットワークインストール)』(Part No. 820-0177) を参照してください。

21. `setdomainmode(8)` コマンドを使用して、ドメインの自動ブート機能を有効にします。

自動ブート機能は、ドメインのリブートによって適用されます。詳細については、『*SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』および `setdomainmode(8)` の man page を参照してください。

既存のドメインに追加された SPARC64 VII プロセッサ

SPARC64 VII プロセッサを既存のドメインに追加する手順には、2つの段階があります。まず、システムを準備します（「[既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備](#)」(P.26) を参照）。その後で、次のいずれか該当する搭載シナリオの手順を使用して、プロセッサを搭載します。

- 「[SPARC64 VIで構成されているドメインへの SPARC64 VII CPUモジュールの追加](#)」(P.28)

- 「既存ドメインにおける SPARC64 VI CPU モジュールの SPARC64 VII へのアップグレード」 (P.29)

▼ 既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備

1. 必要に応じて、SPARC64 VII プロセッサをサポートするバージョンの Solaris OS にアップグレードします。

サポートされているソフトウェアのバージョンについては、「サポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム」 (P.4) を参照してください。必須パッチがあれば適用します。

2. platadm 権限を持つアカウントで XSCF にログインします。
3. 現在、ステータスが Faulted または Deconfigured と示されている FRU がないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

4. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

5. ドメインの電源が切断されていることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

6. オペレーターパネルのキーの位置を Locked から Service に変更します。
7. XSCF スナップショットを収集し、アップグレード前のシステムステータスをアーカイブします。

アップグレード中に問題が発生した場合、システムステータスのスナップショットが役に立つことがあります。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

8. XCP のバージョンを 1081 にアップデートします。
ファームウェアを XCP 1081 にアップデートする前に、「XCP 1081 へのアップグレード」 (P.12) を参照してください。ファームウェアをアップデートする手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。
9. platadm 権限または fieldeng 権限を持つアカウントで、XSCF に再びログインします。

10. すべてのドメインの電源を投入し、OpenBoot PROM ファームウェアを適用します。

```
XSCF> poweron -a
```

ok プロンプトが表示されます。Solaris OS を起動する必要はありません。

11. アップデートされた OpenBoot PROM バージョンを確認します。

```
XSCF> version -c cmu -v
```

XCP 1081 の場合、OpenBoot PROM のバージョンは 02.08.0000. です。出力は次のようになります。

```
XSCF> version -c cmu -v
DomainID 0: 02.08.0000
DomainID 1: 02.08.0000
DomainID 2: 02.08.0000
DomainID 3: 02.08.0000
XSB#00-0: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#00-1: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#00-2: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#00-3: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-0: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-1: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-2: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
XSB#01-3: 02.08.0000 (Current)      02.03.0000 (Reserve)
...
```

12. すべてのドメインの電源を切断します。

```
XSCF> poweroff -a
```

13. 適切なインストール手順を続行します。

- SPARC64 VII 搭載の新しい CPU モジュールを、SPARC64 VI プロセッサで構成されているドメインに追加する場合、[「SPARC64 VI で構成されているドメインへの SPARC64 VII CPU モジュールの追加」\(P.28\)](#) の手順を続行します。

- 既存ドメインで、既存の SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII プロセッサにアップグレードする場合、「[既存ドメインにおける SPARC64 VI CPU モジュールの SPARC64 VII へのアップグレード](#)」(P.29) の手順を続行します。

▼ SPARC64 VI で構成されているドメインへの SPARC64 VII CPU モジュールの追加

この手順の前に、「[既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備](#)」(P.26) の手順を完了しておく必要があります。まだの場合は、完了してからこちらの手順に進んでください。

1. CPUM を本体装置に搭載します。

手順については、『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』の「CPU モジュールの交換」の章を参照してください。この手順には、本体装置全体の電源切断も含まれています。



注意 – CPU モジュールを搭載した後、電源装置に電源ケーブルを再び接続する必要があります。

2. platadm 権限または fieldeng 権限を持つアカウントで、XSCF に再びログインします。

新しく搭載した CPU モジュールの初期診断を実行します。

```
XSCF> testsb 01
```

次の例は、PSB#01 を追加した後のテストを示しています。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start.Continue?[y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

3. 搭載した CPU モジュールが本体装置によって認識されていること、および異常を示すアスタリスク (*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

4. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

5. オペレーターパネルのキーの位置を Service から Locked に変更します。

6. CPU モジュールについて、次の設定を行います。

- XSB を設定
- LSB を設定
- XSB をドメインに追加
- ドメインの CPU 動作モードを設定

これらの設定については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。

7. すべてのドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

8. すべてのドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

9. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

▼ 既存ドメインにおける SPARC64 VI CPU モジュールの SPARC64 VII へのアップグレード

この手順の前に、「[既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサ追加の準備](#)」(P.26) の手順を完了しておく必要があります。まだの場合は、完了してからこちらの手順に進んでください。

1. SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII CPU モジュールと交換します。

手順については、『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』の第 12 章「CPU モジュールの交換」を参照してください。この手順には、本体装置全体の電源切断も含まれています。



注意 – CPU モジュールを搭載した後、電源装置に電源ケーブルを再び接続する必要があります。

2. `platadm` 権限または `fieldeng` 権限を持つアカウントで、XSCF に再びログインします。
3. 新しく搭載した CPU モジュールの初期診断を実行します。

```
XSCF> testsb 01
```

次の例は、SPARC Enterprise M5000 サーバに PSB#01 を追加した後のテストを示しています。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start.Continue?[y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

4. 搭載した CPU モジュールが本体装置によって認識されていること、および異常を示すアスタリスク (*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

5. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

6. オペレーターパネルのキーの位置を `Service` から `Locked` に変更します。
7. ドメインの CPU 動作モードを設定し、確認します。

詳細については、『*SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。

8. すべてのドメインの電源を投入します。

```
XSCF> poweron -a
```

9. ターゲットドメインが正常に起動したことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

10. 異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```


ハードウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- 「200V 電源装置を使用する場合の注意事項」 (P.33)
- 「電源を切断した後に電源を投入する場合の注意事項」 (P.33)
- 「ハードウェアに関する問題と回避方法」 (P.34)
- 「ハードウェアドキュメントの変更予定」 (P.35)

200V 電源装置を使用する場合の注意事項

B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 20A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、20A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

電源を切断した後に電源を投入する場合の注意事項

電源ケーブルを引き抜くか、または分電盤のサーキットブレーカーを使用してシステムの電源を切断した場合、電源を切断した後に少なくとも 30 秒待ってから、電源を投入してください。

ハードウェアに関する問題と回避方法

Sun Crypto Accelerator 6000 カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバでパニックまたはハングが発生するおそれがあります。SCA6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは使用しないでください。

ハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントの出版後に判明したハードウェアに関する最新情報および変更予定を示します。

表 3 に、ドキュメントの変更予定を示します。

表 3 ハードウェアドキュメントの変更予定

タイトル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ設置計画マニュアル	2-14	「表 2.4 電源コードとコネクタ形状」。以下の注釈を追加します。 注 - B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 20A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、20A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバインストールレーションガイド	2-8	「表 2.3 電源プラグとコンセント形状」。 以下の注釈を追加します。 注 - B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 20A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、20A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル	6-31	「シングルランク」は「1 ランク」、「デュアルランク」は「2 ランク」と読み替えてください。

『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービス スマニュアル』の変更予定

次の情報は、『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービススマニュアル』の情報よりも優先されます。

ソフトウェアによる本体装置の電源切断

ここでは、「4.4.1 ソフトウェアによる本体装置の電源切断」を変更します。変更後の記述は次のとおりです。

1. 本体装置の電源を切断することをユーザーに通知します。
2. 必要に応じて、システムファイルとデータをテープにバックアップします。
3. XSCF シェルにログインし、`poweroff` コマンドを入力します。

```
XSCF> poweroff -a
```

`poweroff` コマンドを使用すると、次の処理が実行されます。

- Solaris OS が完全にシャットダウンします。
- 本体装置の電源が切断されて、本体装置がスタンバイモードになります（XSCF ユニットと1つのファンは電源が投入されたままになります）。

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

4. XSCF のステータス LED の状態を確認します。
POWER LED が消灯している必要があります。
5. 入力電源からすべての電源コードを抜きます。



注意 – 電源コードを抜かないと電氣的故障が発生する可能性があります。本体装置の電源を完全に切断するには、すべての電源コードを抜く必要があります。

手動による本体装置の電源切断

ここでは、「4.4.3 手動による本体装置の電源切断」を変更します。変更後の記述は次のとおりです。

1. 本体装置の電源を切断することをユーザーに通知します。
2. 必要に応じて、システムファイルとデータをテープにバックアップします。
3. オペレーターパネルの POWER スイッチを 4 秒以上押して、電源を切断します。
4. オペレーターパネルのステータス POWER LED が消灯していることを確認します。
5. 入力電源からすべての電源コードを抜きます。



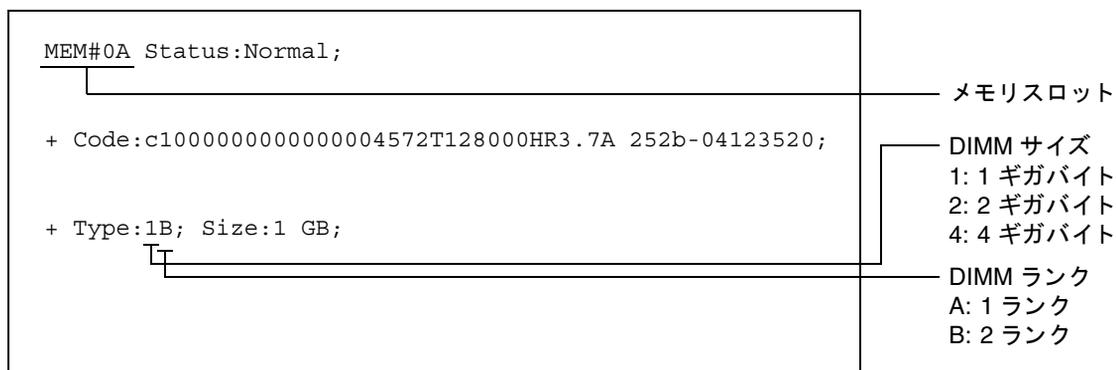
注意 – 電源コードを抜かないと電氣的故障が発生する可能性があります。本体装置の電源を完全に切断するには、すべての電源コードを抜く必要があります。

DIMM 情報の説明

11.2.1 DIMM 情報の確認、図 11-5 DIMM 情報の説明。

図 11-5 に、DIMM 情報の例を示します。

図 11-5 DIMM 情報の例



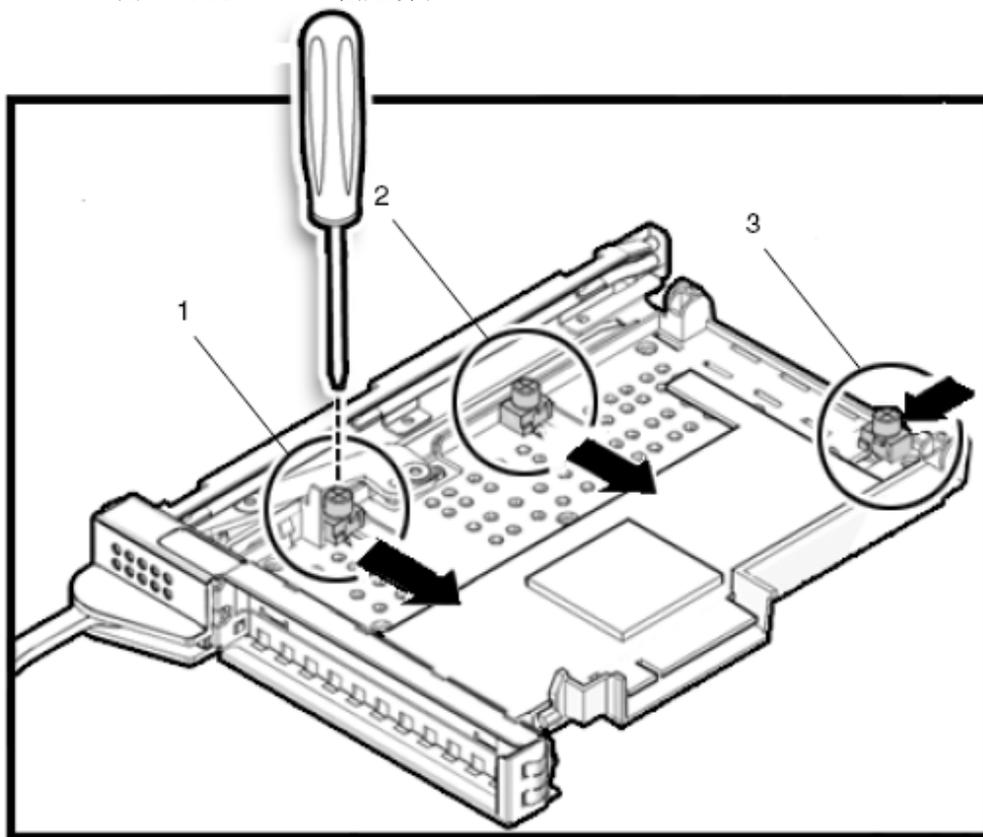
PCI カードの取り付け

ここでは、「8.2.2 PCI カードの取付け」を変更します。

4. PCI カードが所定の位置にくるように調整可能な停止位置を移動し、ドライバーを使用して調整可能な停止位置を固定します。

注 - カードが正しく装着されるように、調整可能な停止位置をカードにぴったり合う位置にして、しっかりと固定する必要があります。また、PCI カードは図 8.6 の 1 → 2 → 3 の順に固定してください。

図 8.6 PCI カードの固定順序



ソフトウェアに関する情報

ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCP に関する問題と回避方法」 (P.39)
- 「Solaris OS に関する問題と回避方法」 (P.41)
- 「ドキュメントの変更予定」 (P.55)

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。パッチを入手する方法、およびこれらの問題を修正するパッチが入手可能かどうかを確認する方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

XCP に関する問題と回避方法

表 1 に、XCP の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 1 XCP の問題と回避方法 (1 / 2)

ID	説明	回避方法
6704991	PSU が復電する前に、"Power recovery" のメッセージが表示されます。	"Power recovery" のメッセージが表示された後に、他の PSU の電源を切断する場合は、60 秒待ってください。
6723305	XSCF Web で、サマータイムが正しく表示されません。	回避方法はありません。showlogs(8) コマンドを使用して、サマータイムの時刻を確認してください。
6741770	SNMP トラップホストの設定を変更しても、setsnmp disable と setsnmp enable を実行するまで反映されません。	SNMP の設定を変更した場合は、以下のコマンドを実行してください。 XSCF> setsnmp disable XSCF> setsnmp enable
6756052	XSCF Web のパニックログがメッセージの先頭から表示されない場合があります。	出力の一部しか表示されていない場合は、XSCF シェルで showlogs パニックコマンドを実行してください。

表 1 XCP の問題と回避方法 (2 / 2)

ID	説明	回避方法
6757614	XSCF Web のネットワーク設定では、 <code>setnetwork -r</code> オプションに相当する機能がサポートされていません。また、ホスト名やドメイン名に <code>localhost</code> や <code>localdomain</code> を指定すると、「SessionID has expired」というエラーメッセージが出力されます。	XSCF シェルで <code>setnetwork -r</code> コマンドを実行してください。
6761674	OBP コマンドの <code>probe-scsi-all</code> を最初に実行するときは、外部 SAS ポート経由で接続されたすべてのデバイスが表示されないことがあります。	<code>probe-scsi-all</code> コマンドを再実行してください。
6765468	タイムゾーンの名が 3 文字ではない場合、エラーログが XSCF Web の [Error Log] ページに表示できません。また、XSCF Web の [Panic Log] ページおよび [IPL Message Log] ページで、表の日付が「---」と表示されます。	XSCF シェルで <code>showlogs(8)</code> コマンドを使用してください。
6767612	PCI スロットエラーが検出されたときに、モニタメッセージログが登録されないことがあります。	回避方法はありません。 <code>showlogs error</code> コマンドまたは <code>fmdump</code> コマンドを使用して、PCI スロットの障害情報を確認してください。
6789066	<code>settimezone -c adddst</code> コマンドで、タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前に 8 文字以上を設定した場合、 <code>showlogs</code> コマンドを実行すると、セグメンテーションの障害が発生し、エラーになります。	タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前は、7 文字以下で指定してください。
6789066	タイムゾーンの省略記号に 8 文字以上を設定した場合、 <code>showlogs</code> コマンドがエラーになります。	回避方法はありません。
6794232	2 つの IOU による 100VAC 電力で動作中、 <code>setdualpowerfeed</code> が有効でも、ハードウェアは構成解除されたままです。	M4000/M5000 システムでは、 <code>dualpowerfeed</code> を有効にすることはできません。

Solaris OS に関する問題と回避方法

この項では、Solaris OS に関する問題について説明します。表 2、表 3、表 6、および表 7 に、使用している Solaris OS リリースに応じて発生しうる問題を示します。

サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題

サポートされているリリースの Solaris OS で発生しうる問題を、表 2 に示します。

表 2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 (1 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6440061	ドメインのコンソールに次のメッセージが表示されることがあります。 ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6459540	DAT72 内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。またデバイスは、システムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。 tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3; SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には半角スペースが 4 つ必要です。
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を使用できません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細については、当社技術員にお問い合わせください。
6531036	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。
6531668	中断状態で SP DR のパラレルホットプラグ操作を実行したときに、システムがハングします。	回避方法はありません。

表 2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 (2 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6532215	ドメインのブート時に <code>volfs</code> や <code>dscp</code> サービスの起動が失敗することがあります。	サービスを再起動してください。この問題を事前に回避する場合は、以下のコマンドを実行してください。 <pre># svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre>
6565553 6674266	DR <code>deleteboard(8)</code> および <code>moveboard(8)</code> 操作が失敗することがあります。 ドメインに表示されるメッセージの例を次に示します。 <pre>drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci</pre>	回避方法はありません。 DR 操作を再実行してください。
6572827	<code>prtdiag -v</code> コマンドで PCI バスのタイプが間違っ て出力されます。PCI-X リーフデバイスが「PCI」、レガシー PCI デバイスが「UNKN」と表示されます。	回避方法はありません。
6575970	DR と XSCF のフェイルオーバーが不整合です。	
6588555	カーネルメモリで DR 操作中に XSCF をリセットすると、ドメインがパニックすることがあります。	DR 操作の進行中は、XSCF リセットを起動しないでください。DR 操作が完了するのを待ってから、リセットを開始します。
6592302	DR 操作が失敗すると、メモリが一部未設定のままになります。	<code>addboard -d</code> コマンドを使用してボードをドメインに戻すことによって、復旧 できる場合があります。復旧 できない場合は、 <code>deleteboard(8)</code> を再実行してください。
6619344	Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードは、ホットプラグ操作でスロット 1 に構成した場合に機能しないことがあります。	この問題を事前に回避するには、このカードをホットプラグ操作でスロット 1 に取り付けないようにしてください。
6623226	Solaris コマンドの <code>lockstat(1M)</code> や <code>dtrace lockstat</code> プロバイダで、システムパニックが発生することがあります。	これはパッチ 140336-01 で修正済みです。 Solaris の <code>lockstat(1M)</code> コマンドおよび <code>dtrace lockstat</code> プロバイダを使用しないでください。
6625734	シングルドメイン環境で多数のプロセッサが存在するシステムでは、一定の負荷を伴う準最適パフォーマンスになることがあります。	プロセッサセットを使用して、アプリケーションプロセッサまたは LWP をプロセッサのグループにバインドしてください。詳細については、 <code>psrset(1M)</code> の man page を参照してください。

表 2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 (3 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu</code> エラーが発生すると、Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> モジュールが失敗し、FMA サービスが停止することがあります。</p> <p>これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1- cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled.Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled.Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT- ID></code> to locate the module.Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.</pre>	<p><code>fmd</code> サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>
6668237	<p>DIMM を交換しても、該当する DIMM の故障がドメインから消去されません。</p>	<p><code>fmadm repair <i>fmri</i> <i>uuid</i></code> を使用して修復を記録してください。その後、<code>fmadm rotate</code> コマンドを使用して残りのイベントを消去します。</p>

表 2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 (4 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6679370	<p>システムのブート中、ホットプラグによる PCI ボックスの追加中、または DR による FMEMA の操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。</p> <p>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical</p> <p>...</p> <p>DESC:</p> <p>A problem was detected in the PCIExpress subsystem.</p> <p>Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-75 for more information.</p> <p>...</p>	<p>/etc/system に次の行を追加し、ドメインをリブートしてください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre>
6680733	<p>負荷が高い状況で、Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NIC がパニックすることがあります。</p>	<p>これはパッチ 139570-01 で修正済みです。</p>
6689757	<p>単一の XFP 光トランシーバまたは正しく取り付けられていない XFP 光トランシーバで Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります。</p> <p>The XFP optical transceiver is broken or missing.</p>	<p>これはパッチ 139570-01 で修正済みです。</p> <p>両方の XFP 光トランシーバが筐体にしっかりと装着されていることを確認してください。</p> <p>INTEL と Sun の XFP 光トランシーバを同じアダプターに混在させないでください。</p> <p>ポートに XFP 光トランシーバが含まれていない場合、またはポートに XFP 光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、ifconfig コマンドでポートを精査しないでください。</p>
6723202	<p>M4000/M5000 サーバのオンボード SAS/LSI コントローラを使用してハードウェア RAID を構築するために、raidctl コマンドを使用することはできません。</p> <p>raidctl コマンドは、ディスクやコントローラのスレータスを確認するために使用したり、システムにインストールされている PCI ホストバスアダプター (HBA) で使用したりすることができます。</p>	<p>回避方法はありません。この問題は解決する予定はありません。</p>
6745410	<p>システムをブートしないようにする Kadb オプションが、ブートプログラムで無視されます。</p>	<p>kadb の代わりに kmdb を使用してください。</p>

Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題

表 3 に、Solaris 10 10/08 OS で修正された問題を示します。Solaris 10 10/08 より前のサポートされているリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1 / 2)

CR ID	説明	回避方法
6511374	エラーが多すぎてメモリバンクが無効になった場合は、ブート中にメモリ変換の警告メッセージが表示されることがあります。	これはパッチ 137137-09 で修正済みです。システムのリブート後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次回ブート時に問題が再現しないようにできます。
6533686	XSCF でシステムリソースが不足している場合、カーネルメモリを移動する <code>DR deleteboard</code> または <code>moveboard</code> 操作が、次に示す 1 つ以上のエラーで失敗することがあります。 <code>SCF busy</code> <code>DR parallel copy timeout</code> この問題が発生するのは、マルチドメインのホストである Quad-XSB 構成のシステムボードだけです。	これはパッチ 138397-01 で修正済みです。後で、DR 操作を再実行してください。
6556742	DR 時に <code>DiskSuite</code> が <code>metadb</code> を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• SG-XPCIE2FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-e Dual-Port Fiber Channel HBA• SG-XPCIE1FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-e Single-Port Fiber Channel HBA• SG-XPCI2FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-X Dual-Port Fiber Channel HBA• SG-XPCI1FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-X Single-Port Fiber Channel HBA	<code>metadb</code> の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。
6589833	SAP プロセスが Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続された記憶装置にアクセスしようとしているときにこのカードを追加しようとすると、 <code>DR addboard</code> コマンドによりシステムがハングするおそれがあります。ネットワークトラフィックが多い状況で以下のカードを使用していると、システムがハングする危険が大きくなります。 <ul style="list-style-type: none">• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter	回避方法はありません。

表 3 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2 / 2)

CR ID	説明	回避方法
6608404	X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カードをホットプラグ操作でスロット 1 に取り付けると、他のネットワークデバイスに障害が発生する場合があります。	この問題を事前に回避するには、このカードをスロット 1 に取り付けないようにしてください。
6614737	次のいずれかの状況が存在する場合、DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作がハングすることがあります。 DIMM が縮退している。 ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっている。	Solaris 10 5/08 またはそれより前の場合、これはパッチ 137111-01 で修正済みです。 次のいずれかの状況が存在する場合、DR 操作を実行しないようにしてください。 <ul style="list-style-type: none"> 縮退メモリシステムに縮退メモリが含まれているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showstatus を使用します。出力例については、「システムメモリの識別」(P.19) を参照してください。 異なるメモリサイズードメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showdevices またはドメインで prtdiag コマンドを使用してメモリサイズのリストを表示します。出力例については、「システムメモリの識別」(P.19) を参照してください。 DR コマンドがハングした場合は、復旧させるためにドメインをリブートしてください。
6632549	ドメインでの fmd service が、DR 操作後に保守モードに入れないことがあります。	これはパッチ 138050-01 で修正済みです。 ドメインで次のコマンドを実行します。 # svcadm clear fmd
6660197	次のいずれかの状況が存在する場合、DR によってドメインがハングすることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ドメインに 256 以上の CPU が含まれている。 メモリエラーが発生し、DIMM が縮退している。 	これはパッチ 138397-01 で修正済みです。 1. 次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。 set drmach:drmach_disable_mcopy = 1 2. ドメインをリブートしてください。
6720261	ドメインで Solaris 10 5/08 OS が稼働している場合、通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	これはパッチ 137137-09 で修正済みです。 [回避方法] 次のパラメータをシステムに設定します。 仕様ファイル (/etc/system) : set heaplp_use_stlb=0 その後、ドメインをリブートしてください。

Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題

表 6 に、Solaris 10 5/08 OS で修正された問題を示します。Solaris 10 5/08 より前のサポートされているリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6348554	<p>以下のカードで <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、コマンドがハングアップするおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA• SG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA• SG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-X HBA• SG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Single-Port Fiber Channel PCI-X HBA	<p>影響を受けるカードでは、<code>cfgadm -c disconnect</code> 操作を実行しないでください。</p>
6472153	<p>SPARC Enterprise M4000/M5000 sun4u サーバ以外のサーバ上に Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それを SPARC Enterprise M4000/M5000 sun4u サーバにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。このため、負荷がかかっているときにコンソールに文字が表示されなくなる場合があります。</p>	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 137046-01 で修正済みです。</p> <p>Solaris フラッシュアーカイブから Solaris OS をインストールした直後に SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバに <code>telnet</code> で入り、コンソールの TTY フラグを以下のようにリセットします。</p> <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> <p>この作業は 1 回だけ実行してください。</p>
6522433	<p>リブート後の CPU 障害によって、<code>fmddump</code> が正しいマザーボードを識別できないことがあります。</p>	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 127127-11 で修正済みです。</p> <p>XSCF のシステムステータスを確認してください。</p>
6527811	<p>XSCF 上で <code>showhardconf(8)</code> コマンドを使用すると、PCI ホットプラグを使用して PCI ボックスが設定されていても、PCI ボックスにインストールされている PCI カード情報を表示することができません。</p>	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 128346-01 で修正済みです。</p> <p>回避方法はあります。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されていれば、PCI カード情報は正しく表示されます。</p>

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6536564	showlogs(8) および showstatus(8) コマンドが、別の I/O コンポーネントを報告することがあります。	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 125369-05 で修正済みです。</p> <p>この問題を事前に回避するには、ドメインで以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARCEnterprise/ lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>次のメッセージが表示された場合は、当社技術員までご連絡ください。 SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</p>
6545143	ユーザースタックアドレスの TLB ミスのトラップ処理中にシステムパニックがまれに発生することがあります。この問題は、フラッシュウインドウトラップ (ta 3) を実行するユーザープロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています。 bad kernel MMU trap at TL 2	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 127111-08 で修正済みです。</p> <p>回避方法はありません。</p>
6545685	電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 127111-08 で修正済みです。</p> <p>/etc/system で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリブートします。</p> <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</pre>
6546188	以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) および DR 操作 (addboard および deleteboard) を実行すると、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>Solaris 10 8/07 の場合、これはパッチ 127741-01 で修正済みです。</p> <p>回避方法はありません。</p>

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6551356	<p>未設定のカードを設定するためにホットプラグ (cfgadm) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「WARNING: PCI Expansion ROM is not accessible」というメッセージがコンソール上に表示されます。次のカードがこのバグの影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>Solaris 10 8/07 の場合、これはパッチ 127741-01 で修正済みです。</p> <p>注 - I/O カードを取り外すために <code>cfgadm -c unconfigure</code> を使用しないでください。</p> <p>カードを完全に取り外すには、<code>cfgadm -c disconnect</code> を使用します。10 秒以上待ってから、<code>cfgadm -c configure</code> コマンドを使用してカードの設定をドメインに戻すことができません。</p>
6559504	<p>以下のカードを使用すると、<code>nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn</code> という形式のメッセージがコンソールに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>
6563785	<p>以下のカードでホットプラグ操作を行った場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra 320 SCSI HBA 	<p>カードを切断した後、数秒待ってから再接続してください。</p>
6564934	<p>以下のネットワークカードを使用しているときにカーネルメモリを搭載したボードに対して DR deleteboard 操作を実行すると、接続が切れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>Solaris 10 8/07 の場合、これはパッチ 127741-01 で修正済みです。</p> <p>DR 操作が完了してから、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順については、<code>ifconfig</code> の man page を参照してください。</p>
6568417	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常に終了した後、次のネットワークインターフェースが使用されていると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 127111-02 で修正済みです。</p> <p><code>/etc/system</code> に次の行を追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (4 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6571370	<p>実験環境でストレス試験を実行した結果、以下のカードでデータ破壊が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>Solaris 10 8/07 の場合、これはパッチ 127741-01 で修正済みです。</p> <p>/etc/system に次の行を追加し、システムをリブートしてください。 <code>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</code></p>
6589546	<p>prtdiag は、次のカードのすべての IO デバイスを表示するわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA • SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA 	<p>Solaris 10 8/07 またはそれより前の場合、これはパッチ 127127-11 で修正済みです。</p> <p>完全出力には <code>prtdiag -v</code> を使用してください。</p>
6663570	<p>最小番号の CPU に関連する DR 操作によって、ドメインでパニックが発生することがあります。</p>	<p>最小の CPU ID を持つ CPU のホストであるシステムボードを取り外すために、DR を使用しないでください。最小の CPU ID を持つ CPU を特定するには、Solaris の <code>prtdiag</code> コマンドを使用してください。</p>

Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題

表 7 に、Solaris 10 8/07 OS で修正された問題を示します。Solaris 10 11/06 では、これらの問題が発生する可能性があります。



注意 – ICR ID #6534471: カーネルメモリ内の大きなページが適切に処理されないと、パニックが不規則に発生するおそれがあります。CR ID #6534471 の回避方法を実行するか、またはパッチが入手可能かどうかを確認し、パッチをただちにインストールしてください。このバグは 125100-06 および Solaris 10 8/07 で修正済みです。

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6416224	単一の NIC カードの接続数が 5,000 を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。 複数の NIC カードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
6441349	I/O エラーでシステムがハングすることがあります。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-07 で修正済みです。 回避方法はありません。
6485555	レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAM に障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。 回避方法はありません。

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6496337	<p>修正不能なエラー (UE) パニックの発生後、「cpumem-diagnosis」モジュールのロードが失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、このモジュールを使用する FMA によって通常は自動診断されるイベントが手動診断を要求します。</p> <p>例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ffem7-d0</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 125369-05 で修正済みです。</p> <p>問題がすでに発生している場合： 回避方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. cpumemdiagnosis ファイルを削除してください。 <pre># rm /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis</pre> 2. fmd service を再起動してください。 <pre># svcadm restart fmd</pre> <p>この問題を事前に回避するには、「rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis」を /lib/svc/method/svc-dumpadm ファイルに、次のように追加してください。 <pre># savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis #</pre></p>
6495303	<p>PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの IOU スロット 1 で使用すると、システムパニックが発生することがあります。</p>	<p>このカードを IOU スロット 1 で使用しないでください。</p>
6499304	<p>予期しないメッセージがコンソールに表示され、修正可能なエラー (CE) が多数発生しても CPU はオフラインになりません。</p> <p>例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 125369-05 で修正済みです。</p> <p>XSCF の CPU ステータスを確認してください。</p>

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6502204	<p>CPU UE パニックの発生後のブート時に、予期しないエラーメッセージがコンソールに表示されることがあります。</p> <p>例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 125369-05 で修正済みです。</p> <p>予期しないメッセージが表示された場合は、<code>showdomainstatus(8)</code> コマンドを使用して、XSCF のシステムステータスを確認してください。</p>
6502750	<p>増設または減設されたホットプラグの PCI カードが通知メッセージを出力しないことがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。</p> <p>回避方法はありません。</p>
6508432	<p>PCIe の偽の修正可能なエラーが FMA エラーログに多数記録されることがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。</p> <p>これらのエラーをマスクするには、次のエントリを <code>/etc/system</code> に追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre>
6508434	<p>PCI ホットプラグを使用して PCI-X カードを増設または交換すると、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。</p> <p>PCI ホットプラグを使用して、異なるタイプの PCI-X カードを同じ PCI スロットに増設しないでください。</p>
6510861	<p>PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIe の修正可能なエラーによって Solaris のパニックが発生します。</p>	<p>Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。</p> <p>この問題を回避するには、次のエントリを <code>/etc/system</code> に追加してください。</p> <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</pre>
6520990	<p>ドメインがリブートしたとき、SCF が同じ物理ボードを共有している他のドメインにサービスを提供できないことがあります。DR 操作がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。</p>	<p>次の記述を <code>/etc/system</code> に設定して DR タイムアウト時間を大きくし、システムをリブートします。</p> <pre>set drmach:fmem_timeout = 30</pre>

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (4 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6530178	DR <code>addboard</code> コマンドがハングすることがあります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメインのリブートが必要です。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-07 で修正済みです。 回避方法はありません。
6530288	<code>cfgadm(1M)</code> コマンドが <code>Ap_Id</code> フォーマットを正しく表示しないことがあります。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-07 で修正済みです。 回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	このバグは Solaris 10 8/07 で修正済みです。このバグに対するパッチが入手可能かどうかを確認してください。 パッチが入手可能でない場合は、カーネルの大きなページの sTLB プログラミングを無効にしてください。/etc/system ファイルで、 <code>heaplp_use_stlb</code> 変数を 0 に変更してください。 <code>set heaplp_use_stlb=0</code>
6535564	DR によって追加された XSB で、PCI スロット #0、#1、または PCI ボックスに対する PCI ホットプラグが失敗することがあります。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-08 で修正済みです。 XSB の PCI カードを増設または減設する必要がある場合は、PCI ホットプラグの代わりに DR を使用してください。
6539084	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合、リポート中にドメインのパニックがまれに発生することがあります。	これはパッチ 125670-01 で修正済みです。
6539909	<code>boot net install</code> コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードが使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。
6542632	ドライバ接続に失敗すると、PCIe モジュールにメモリアリークが発生します。	Solaris 10 11/06 の場合、これはパッチ 120011-09 で修正済みです。 回避方法はありません。

ドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントの出版後に判明した最新情報を示します。

『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』に関する変更内容はマニュアルのみに適用されます。XSCF man page が正確です。

表 1 に、ドキュメントの変更予定を示します。

表 1 ドキュメントの変更予定 (1 / 2)

ドキュメント	変更対象	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	2-34 ページ	<p>「ロックアウト時間に 0 分を指定してロックアウト機能を無効にする場合、任意のユーザーアカウントで最初のログインに成功すると、ロックアウト機能は無効になります。無効設定後、最初のログインに失敗すると、ロックアウト機能は無効になりません。ロックアウト機能を無効にするには、再度、0 分を設定しなければなりません。」という説明は、次のように変更されます。</p> <p>「setloginlockout コマンドで、-s 0 を指定すると、ロックアウト機能を無効にできます。</p> <p>ロックアウト機能を無効に設定した場合、ユーザーは何回でもログインを試みることができるようになります。ロックアウト時間が経過する前にロックアウトされたユーザーアカウントにアクセスする必要がある場合は、システム管理者にロックアウト機能を無効にしてもらい、ログインが許可された後、ロックアウト時間を設定してロックアウト機能を再度有効にしてください。」</p>
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	3-4 ページ	<p>「ドメインコンソールは強制ログアウトしません。」という説明は、次のように変更されます。</p> <p>「ドメインからログアウトしないで、ドメインコンソールから XSCF シェルコンソールに戻った場合は、自動的にドメインからログアウトされます。ドメインコンソールを放置した場合のセッションタイムアウト時間を設定する場合は、Solaris OS のマニュアルを参照してください。」</p>
Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファ レンスマニュアル		<p>新しいコマンドの setloginlockout(8) および showloginlockout(8) は、リファレンスマニュアルに記載されていません。</p> <p>詳細については、man page を参照してください。</p>

表 1 ドキュメントの変更予定 (2 / 2)

ドキュメント	変更対象	変更内容
Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファ レンスマニュアル	setssh(8) コマンド	次に示す新しいオプションは、マニュアルに記載されていません。 -m dscp=mode 詳細については、setssh の man page を参照してください。
Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファ レンスマニュアル	showenvironment(8) コマンド	-power オプションは、マニュアルに記載されていません。 詳細については、showenvironment の man page を参照してください。
Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファ レンスマニュアル	showssh(8) コマンド	SSH の現在の値を表示する方法の説明は、マニュアルに記載されていません。 詳細については、showssh の man page を参照してください。
Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファ レンスマニュアル	traceroute(8) コマ ンド	ユーザー権限内の以下の記述は削除されます。 <ul style="list-style-type: none"> DSCP アドレスに対して実行する場合 fieldeng オペランド内の記述に、以下の内容が追加されます。 DSCP アドレスを指定した場合はエラーとなります。
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファ レンスマニュアルおよび man page	showaltitude(8) コ マンド	man page ではプラットフォームの電源再投入 (パ ワーサイクル) を指示していますが、XSCF のリポー トでも差し支えありません。